

平成 30 年度



日本建設機械施工大賞 受賞業績（その 1）

日本建設機械施工大賞は、我が国の建設事業における建設機械及び建設施工に関する技術等に関して、調査・研究、技術開発、実用化等により、その高度化に顕著な功績をあげたと認められる業績を表彰し、地域賞部門は、地域に根ざした独自の視点に基づき、従来の施工方法・技術を改良したり、地域に普及させるなどの取り組みを通じて地域へ貢献している業績を表彰し、もって国土の利用、開発及び保全並びに経済及び産業の発展に寄与することを目的としております。

平成 30 年度は、大賞部門には 10 件、地域賞部門には 2 件の応募があり、その中から日本建設機械施工大賞選考委員会（委員長：深川良一 立命館大学教授）において厳正な審査を行った結果、下記のとおり、大賞部門で 5 件、地域賞部門で 2 件が選考され、去る 6 月 12 日に開催された当協会通常総会后、表彰されましたのでご紹介致します。

なお、誌面の都合上、一部表記を原文とは異なる表現とさせていただきますこととお断りします。

受賞業績及び受賞者

■大賞部門

最優秀賞

- ・建設機械の自動化による次世代建設生産システム（A⁴CSEL[®]：クワッドアクセル）

鹿島建設(株)、(株)小松製作所

次世代の建設生産システムとして有益な技術である。建設機械の自動化を実現し、省人化と生産性向上に大きく貢献している。建設機械の自動化に対する技術者の関与をバランスよく考慮している。今後も発展が期待される技術開発であるなど、多くの委員により高く評価された。

優秀賞

- ・地下埋設物可視化システム（Shimz AR Eye 埋設ビュー）の開発

清水建設(株)、岡本 修、(株)菱友システムズ

埋設物の位置を精度良くタブレットに可視化でき、掘削作業の安全性が向上した点は評価できる。技術としての完成度が高く、将来の発展性も大いに期待できる。深度情報の可視化も進めばさらなる発展が期待される。埋設物図面が実際とずれている恐れがある場合もあり、過信は禁物など、懸念も示されたが、多くの委員から高評価された。

選考委員会賞

- ・天井用車載型乾式研掃装置

(株)奥村組

作業員を苦渋作業から解放し、安全性を高められる技術である。トンネル天井面の補修・補強は今後益々重要になってくる。重要な提案である。トンネル補修等での高所上向き作業の省力化への貢献は期待されるなど、ユニークなアイデア・特徴を有することが評価された。

選考委員会賞

- ・大型風車組立リフトアップ工法「ウインドリフト」

(株)大林組、(株)巴技研

従来技術より建設コストは 10% 程度縮減できるとのこと。今後の風車組立に貢献できる技術と思われる。風力発電の重要性を考えると意義深い提案である。ウインドリフト本体の組立、解体および繰り返し使用の良好性が検証されれば、発展する可能性があるなど、秀でた特徴を有することが評価された。

選考委員会賞

- ・鉄骨工事における情報化施工技術

戸田建設(株)

経済的効果は高く評価できる。鉄骨工事における ICT 活用を進める重要な提案であるなど、ユニークな点が評価された。

■地域賞部門

地域貢献賞

- ・YDN（やんちゃな土木ネットワーク）の取り組みについて

（株）山口土木

具体的な取り組み成果が出ることを期待する。取り組み自体がユニークであり、今後各地へ波及していくことが期待できるなど、地域貢献への将来性が評価された。

地域貢献賞

- ・舗装工における3次元データによる出来形管理方法について（実証及び検証）

奥村組土木興業（株）

いわゆるICT施工であり、今後普及が進展することが考えられる。広範囲な地域への展開が期待されることなどが評価された。

